

主婦連合会社会部 100 人アンケート 第 12 回「ノンアルコール飲料」

実施期間 2012 年 8 月 24 日～2012 年 9 月 4 日

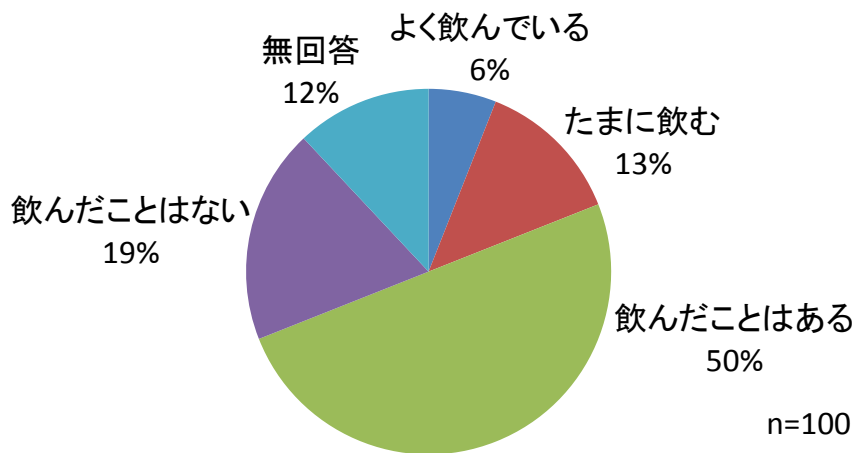
配布数 100

回答数 88

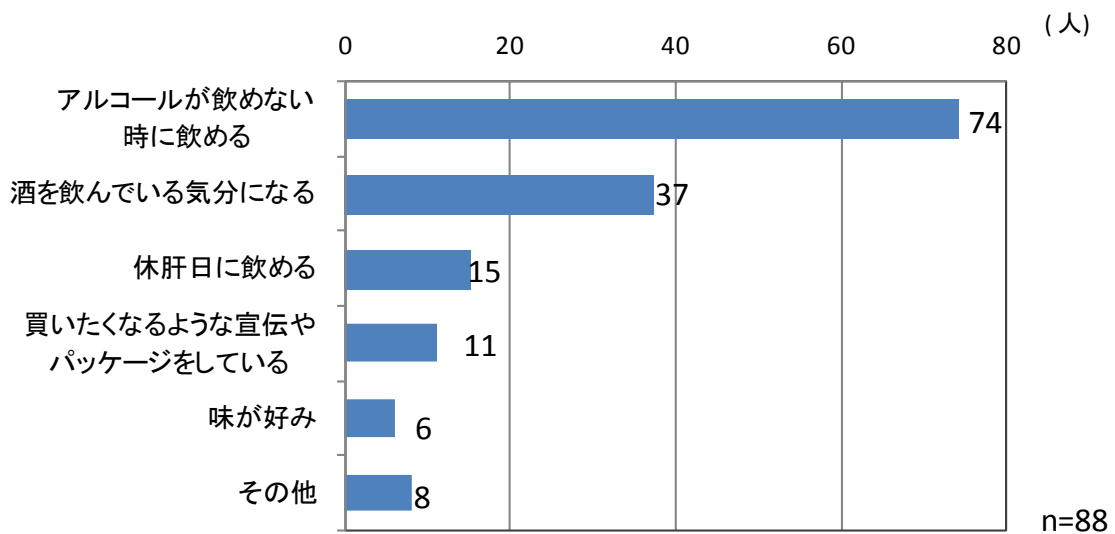
回答率 88.0%

ノンアルコール飲料は、アルコール分が含まれないアルコールテイストの飲料のことで、日本の法律では清涼飲料水に分類されています。

Q1.あなたはノンアルコール飲料を飲みますか？(回答は1つ)



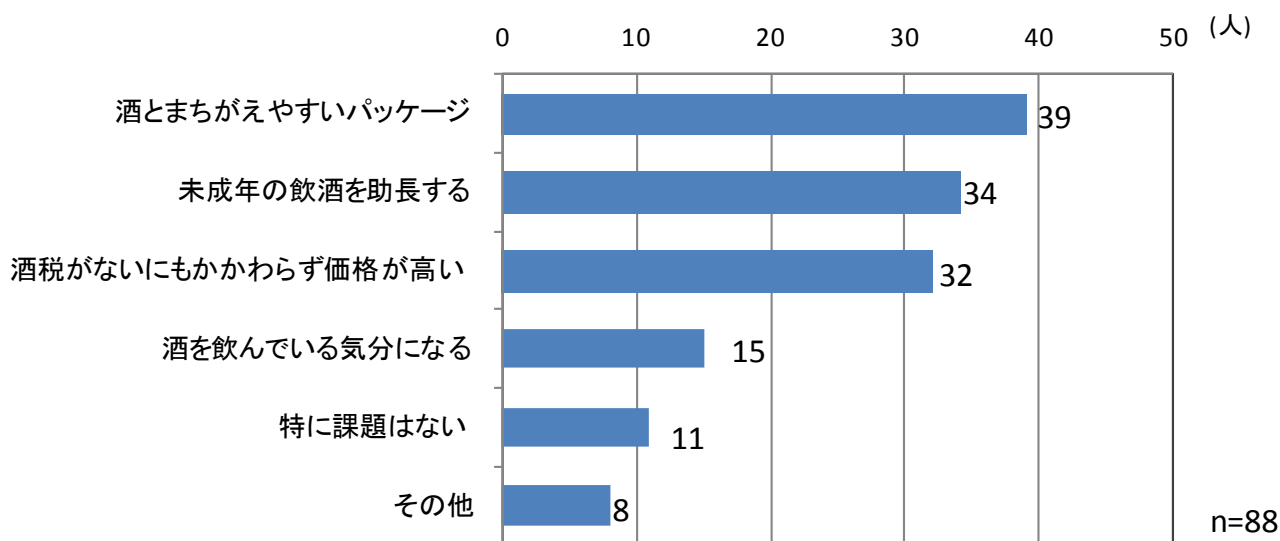
Q2.ノンアルコール飲料が飲まれる理由は何だと思えますか？(複数回答可)



【その他回答より】

- 宴会の付き合い。
- わからない。一度飲んだことはあるが美味しいと思えなかった。
- みんながお酒を飲む席に出ざるを得ないとき。
- 試飲で
- 飲み会、接待等で、飲めない人が飲む席でノンアルコールを飲んでいれば、場がシラケない。
- アルコールが事情で飲めない人(妊娠中、運転前)が飲む。

Q3.ノンアルコール飲料に課題があるとすれば、どのようなことですか？(複数回答可)



【その他回答より】

- 味がおいしくない。
- 完全にアルコールフリーでないものもあるようで、紛らわしい。
- 子どもや妊娠中の女性、持病などでアルコール類を摂取できない方にも全く問題がないような誤認させる宣伝。
- 特に若い女性をターゲットにしていると思われるCMは、速やかに見直しを！



【まとめ】

ノンアルコール飲料は、約 7 割の人が飲んだことがあると回答しています。広告などで大きく宣伝されていますので、関心がある方が多いことが伺えます。

飲まれる理由に「アルコールが飲めない時に飲める」(74 人)、「酒を飲んでいる気分になる」(37 人)が挙がる一方、「酒と間違いやすいパッケージ」(39 人)、「未成年の飲酒を助長する」(34 人)という課題も指摘されています。

味が本物の味に近づいていることで、未成年が摂取を繰り返すと、味だけでなく香りなどに慣れてしまい、本物のアルコールに抵抗感がなくなる危険性があること、また、アルコール依存症を助長するということが問題となっています。

酒と清涼飲料水の間にはっきりとした境界線を引き、子どもや妊娠中の女性、持病などでアルコールを摂取できない人にも全く問題がないような誤認をさせる宣伝や「酒と間違いやすいパッケージ」の改善が必要です。

※ノンアルコール飲料についてのご意見から

- 清涼飲料水に分類されていながらも、酒類とほぼ同じマーケティングや広告を行っているため、青少年へのさまざまな影響が懸念される。
- 名称もアルコールと似ていて混同する。子どもに「子どもが飲んでもいいビール」と認識されていて説明に困っています。
- ノンアルコールで、甘みが少なく食事に合う商品が開発されることは、歓迎できることだとは思いますが、ただの清涼飲料として販売するのではなく、「アルコールの代替品」とすることには、問題を感じます。
- 私の周りでは、甘い飲料やお茶とはちがうすっきりした飲み物として、ノンアルコールビールが支持されています。デザインがお酒と同様なので、通常のドリンクと同じデザインにしていたらいつでも気にせず飲めていいと思います。
- ノンアルコール飲料とはいえ、いつでもどこでも誰でも飲めるものではなく、マナーと節度が大切なのは、アルコール飲料と同じだと思っています。
- 車の運転を控えていたり妊娠中に参加する飲みの席などにノンアルコール飲料を選択するわけですが、ビールに味が近い分、逆に本物のビールを飲みたくなってしまいます。「最初からお茶にしておけばよかった」と後悔したことも…
- あまり必要性は感じませんが、人によっては車の運転時や体質など、お酒を飲みたくても飲めないときに、気分だけでも味わえるのがいいのかなと思います。

